

野の圧力

5月20日の午前中、鶏舎が2頭の野犬に襲われました。30羽ほどが食い殺されてしまいました。近年は、アライグマに悩まされ続けていたので、野犬のことを忘れていました。飼い主に捨てられた犬は、野良犬を経て、その精鋭は、野犬となります。野の扉は、野のいや増す圧力で破られたわけですが、近年は、野と里の区別も判然としないあり様です。

世は、ダメになったら切り捨ててしまえ、という風潮ですが、野の力は、生半可なものではないので、境界線を守る中間山地の営みが崩壊すれば、町や都会も、大きな代償を支払うことにもなります。非効率とはいえ、日本の食糧生産、防災の大きな部分もになっているわけですから、影響は計り知れません。

と、いつもの方角へ脱線してしまいました。

通常なら、もっとも卵に余裕のある時節ですが、不足することもあると思います。梅雨入りして日照不足、梅雨明け、酷暑がやってくれば… 今後の野の扉の養鶏は、自然減→消滅までとすることにしました。いろいろ悩んできましたが、決めました。卵のお客様には、今後その都度見通しをご報告いたします。よろしく願います。(晃)



若干の補足

野犬にやられたのは、10年以上前のことかなあ、と、菜園たよりのバックナンバーを探したら、2004年の4月の、野良「猫」にやられた記事が古いホームページに載っていて、「3年前、野犬に入られて、全体の7割近くの鶏が殺されたことがありました。それ以来、小屋の周りの羽目板やドアを補強して、守りを固めてあったのですが、今回は、外壁をよじ登って、上から屋根との狭いすき間をくぐって侵入したようでした」とありました。伊藤の実家から、まだホームページをやっていない頃の古い手書きのたよりから、ずうっとファイリングしてくれていたものをもらっていたので、調べると、2001年6月、「鶏を飼って6年、はじめてのこと」という記事が載っていました。それ以来、下から破られたことはなかったのですが。去年は、1羽2羽と、アライグマに連続して20羽ほどやられました。ひと月ほど前には、近所の仲間のところ(多分)アライグマに入られて、雛が一部屋全部殺されたばかりでした。

毎年5月に雛を入れて鶏を更新していたのですが、原発事故の後、1年休んで、去年は雛を再び入れて、と、迷いながらの養鶏でした。里山の林の中での幸せな鶏飼いやあと数年、と思うと、正直さびしいですが、その後は野菜作りに今以上専念したいです。

写真は、年頭から寄居町と猟友会の協力で設置されているイノシシ用のワナ(右側。入り口が約1m20cm四方。相当重い。エサは米ヌカとうちのサツマイモ)と、熊谷保健所が設置してくれた野犬用のワナ(エサはサラミ!を入れてくれた)です。あと、もっと小さな、数年前に購入したアライグマ用のワナ(エサは100円ショップのドライフルーツのミックス。最近小さいのが1匹捕獲されたばかり。こちらも寄居町全域で旺盛に繁殖しているそうです)も、活躍していて、3つそろい踏みの、わが里山です。(5月27日 泰子)

